

ストライキ委員会に対する、TMMF（フランドトヨタ）副社長 T・野中からのメッセージ

2009 年 4 月 14 日

副社長として、私は諸君に申し上げたいいくつかの重要な事柄がある。諸君のご承知のとおり、私は日本の TMC から派遣されてきており、したがって私の見解はグループの経営陣の見解を反映するものである。

先週金曜日、私は、トヨタグループが現在どのような困難な状況に置かれているか、そしてまたこのような条件下にあってもなお我々は雇用を維持するためにあらゆることをするであろうということを、諸君に簡潔に説明した。すると諸君の中の 1 人が次のようなコメントを述べた。「能書きを言って我々を眠らせるのを止めたまえ！」と。だからそこが諸君の考えどころなのであり、今日私は、諸君を眠らせない説明を諸君に話して聞かせることにする。私がこれから諸君に言うことは、おそらく皆さん全員にとって嬉しい話というわけにはいかないであろうが、どうか終いまでご静聴願いたい。

この危機期間のマイナスの影響を最小限に押える目的で、我々は、先週水曜日以降以下の提案を行ってきた。

1. 今から夏までの間、一部操業停止手当の継続打ち切りによる生産数量の増大
2. 一部操業停止手当の影響（訳注：ゼロにすることを指すのか？）1 ヶ月当たり 2 日までに拡大すること。
3. 諸君は第 4 週の休暇を、労働者の選択により、休暇としてでも、または一部操業停止に伴う給料の減少を補填するためにでも、利用してよいようにする。

この措置は、諸君の労働によって諸君の給料を 100%回収することを諸君に可能にするものである。

不幸なことに、諸君はこの措置を受入れず、今週ストを続行することを決定した。これは実に遺憾なことである。

私は今一度繰り返す。我々は一部操業停止手当を 100%支払うことはしないであろう。我々はスト日の補償はしないであろう。なぜか？それは、諸君がストを行っている間、多くのチームメンバーが生産を継続しているからである。もしも我々に諸君に補償するカネがあったとしたら、私は働き続け自分の持ち場に留まっている 90%のチームメンバーにそれを与える方を選ぶであろう。私は、諸君が代表する 10%よりも、むしろこれら 90%のチームメンバーを優遇する方を選ぶ。

「労働なくして給料なし」、これはトヨタグループにとっての原則である。私にはこれが企業にとって当たり前のことのように見える。もしもこのことが諸君の気に入らないのであれば、諸君は、働かなくても給料を支払うことを受入れてくれそうな企業に行って働く自由がある。

組合代表者たちにとっては結構なことである。見受けられるところでは、貴君らは諸君がストに入っている時に組合から給料が支払われる。

ペカール（エリック）氏よ、貴君はさぞ大変満足なのではないのかね。貴君は 1 週間にわたってストを引っ張らせることに成功して、テレビや新聞に引っ張り尻になっているからね。

カンピエ氏にとっては、それほど旨味はない。目に見えて明らかなように、貴君の全国指導部は貴君の行動には不同意である。FO における貴君の将来は本当に保証されているのかね？

最終的にはこのストで儲かるのは CGT だけなのである。

私は、今ここに、組合員によってこのストに引っ張り込まれてきている非組合員であるチームメンバー全員に向かって申し上げる。

私は、今から諸君の仕事を取り戻すよう諸君に提案する。諸君の持ち場が諸君を待っており、諸君の同僚が諸君を待っているのである。私は、諸君が諸君のラインへの復帰の際に快く歓迎されるようにすることを、個人的に約束する。

私は、諸君の中の一定の数の者たちが、敬意を払ってもらえていないとか諸君の管理職との間に問題があるといったような類の、個人的な問題のためにここにやってきていることを承知している。私は、こうした諸テーマに関して諸君を理解してきたし、希望する者たちに対しては、個人的回答をもたらすことを目指して、諸君と共同作業をして、諸君を受入れていく用意がある。

反対に私は、スト不参加者を侮辱してきた者たちや、霧笛や太鼓の騒音を浴びせてスト不参加者の仕事を混乱させてきた者たちのことは、気にかけていまいだろう。この者たちに関しては、私は、よく歓迎されるような者になってもらいたいと彼らに頼むことが出来ない。

またもやこのストに身を置いている者たちは、諸君が望むなら諸君の現在の持ち場に帰ってきなさい。諸君は既に 1 週間分の給料を失っているのであり、もうそれで沢山なのは

ないか。2日間のストでもって、諸君は一部操業停止手当の1週間相当を失っているのである。

私が既に諸君に言ったように、「労働なくして給料なし」なのである。我々の企業 TMMF は、スト参加者たちには支払わないであろう。この提案がけしからんと言う者たちは、ペカール氏やカンピエ氏のところに苦情を言いに行けばよい。

現在の仕事を取り戻す者たちおよび給料の喪失分が問題を提起する者たちは、諸君のグループリーダーを介して我々に知らせてきなさい。我々は、諸君がこうした困難を乗り越えるのを援助するための解決策を、諸君に提案するのを検討することが出来る。

今なおこれらの提案を受入れず、依然として私に賛同しない者たちよ、諸君はストを続行するがよかろう。当分の間我々は人件費を浮かす幸運に恵まれる。我々は彼らの給料を我々が雇いトヨタのために働く者たちに振り向けることにするであろう。我々はストを行う者たちには支払わないであろう。

私は最後にもう1つ諸君に言いたいことがある。それは叫び声を発し、他人を侮辱し、霧笛や太鼓を鳴らし、発炎筒を発車したりしている者たちのとっている態度に関してである。我々は、諸君のこうした行動に対して何度も防御して来たが、今後はもはやこれ以上このような行動を容認しないであろうということを、諸君に通告する。経営権を侵害し我々の労働者を混乱させる類の態度は、絶対に受け入れられるものではない。

私は諸君にいま一度繰り返す。

諸君の中でこのストに身を置いている者たちよ、明日から職場に合流しなさい、働いている90%の諸君の同僚に合流しなさい。経済的な困難を抱えている者たちに対しては、我々は解決策を見出すであろう。

私は諸君に対し繰り返し述べるが、個人的な問題を抱えている者たちに対して、私が諸君と共にそのような問題に対処し、個々人ごとの対応策を諸君にもたらず用意がある。

ストを続けたいと思う者たちよ、諸君は支払われないであろう。しかも、スト不参加者を侮辱することを再度始める者たちに対して、我々はいつまでも我慢しないであろう。我々は、非難に値する行為を確認する複数の警備員を持っており、そのような行為の実行者は結果について責任を負わなければならないことになるであろう。

私が今日ここで述べたことはニュースフラッシュになるであろう。私は、諸君がこのストを止め、明日から我々が全員一丸となって自動車製造を再開することを、強く念願する。

TMMF は、欧州大陸における唯一のトヨタ車生産組織である。我々の敷地は、年間 27 万台を生産する規模を持っている。グループの経営陣は、我々に大きな希望を託している。その希望を砕くな！必要とされる台数と必要とされる品質とを生産することによって、グループは将来我々に第 2 のモデルの製造を託、TMMF の収入は増大するであろうから、その利益が諸君の生活レベルの上で認識されるものとなるであろう。

諸君はストを続けても何も得られるものはない、ただ諸君が我々の信頼を失うだけである。

明日から、共にゼロから再出発しよう。